講義名	教養特講 (モノの世界)				授業形態		その他			
		開講期・曜日・時限 前期 金曜日 3時限								
担当教員	李志明									
		単位数 2 履	修開始年次 1年生) J/(9)	,,,,,					
題と概要							授業計			
世界はモノで作られており、モノの動き(または移動)がないと、私達の大き性などの生活はできない。 世界的に悪味が売だらっている・・十分など、が、海よず動き、私徒の手の人もことが、いかに重要であるかを体験している。 本議事では、モノの動きについて、昔と現在と未来の思点から実態する・ は、日本の人の大きない理解しば大きな石や木材などが使われているが、機械がなかった出場、大きなモノはどのように選ばれてきたのか。そして、スーパーなどで買えるモノはどの過程を経て私達の手に入る のか、さらには、30プリンター、ドローン、ロボットなどを使う時代にモノの世界はどのように変化するのかについて調論していく。 この議義は、教験村目として、そりの動きに関する経過的な内容をは明する。さらに毎月が村日として学年がしたい場合、物派やロジスティクスに関する授業を受講する。										
卒講義では、モ 世界中の有名な のか。さらには	ノの動きについて、音と現在と木米の視点から子修りる。 古い建物には大きな石や木材などが使われているが、機械がな 、30プリンター、ドローン、ロボットなどを使う時代にモノ	なかった当時、大きなモノはどの の世界はどのように変化するの	ように運ばれてきたのか。 かについて議論していく。	そして、スーパーなどで	で買えるモノはどの過程を	経て私達の手に入る	2.モノ	の世界の理解 の動きの重要性 と二の動きからみるモニ _! の世界		
この講義は、教	養科目として、モノの動きに関する基礎的な内容を説明する。	さらに専門科目として学修した	い場合、物流やロジスティ	ィクスに関する授業を受証	萬する。		5.昔の6.昔か	の動きの重要性 と一の動きからみるモノの世界 の世外における高度管理 巨大なモノの世界 らな化を運ぶてどの世界 らな化を運ぶてどの世界 の世界におけるモノの移動 を経えるモノの移動 を観えるモノの地界 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
							7. 都市 8. 話題	の発展とモノの世界・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
							10.国均	の世界におけるモノの参加 寛を超えるモノの世界 背販売におけるモノの世界		
							12.人证	表現のためのモノの世界 おけならにおけるモノの世界 いけならにおけるモノの世界 の世界の両考察		
							15. €	の世界の再考察		
達目標										
(1) モノの動きの重要性を説明できる。 (2) 身近なモノの動きの触路について説明できる。 (3) 急変するよりの世界を予測してみる。										
(3) 恩愛するセノの世界を予測してみる。										
出課題	0.00=0.1.40964.7									
Kesponc	2回テストを実施する。						授業形	態 (アクティブ・ラーニング)		
								ア:PBL(課題解決型学習)		イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
								ウ:ディスカッション、ディベート	_	エ:グループワーク
								オ: ブレゼンテーション キ: その他(AL型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)		カ:実習、フィールドワーク
								The state of the s		
							準備学	修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間		
題(レポー	トや小テスト等)に対するフィードバックの方法						この担 授業中	業科目は2単位であるが、2単位に必要な学修総時間は90時間と定められている。内訳は授業 に案内する次回の内容についてネットなどを利用して3時間ほど予習しておく。そして授業	業で毎回90分 業後の1時間に	↑、予習・復習で毎回4時間である。 ど復習する。
授業中にテスト	の解説と質問にフォードバックする。									
								定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
評価の基準							この担(新し	業は、教養科目として、モノに着目し、過去と現在と未来という広い範囲でモノの世界を記い視点と豊かな発想)を持った人材、自主・自立の精神を持った人材」に近づけるようになる	議論する。こ <i>σ</i> る。	授業を通して、本学のディブロマ・ポリシーである「知識を知恵に転換することができる人材、創造力
	するテスト 2 回で評価する。 方式が変更しても、評価基準は変更なし。									
^ 子捌甲に按案	カスが変更しても、評価基準は変更なし。									
修にあたっ	ての注意・助言他									
大学の講義として、授業中に議論する機会が多くあります。積極的に自分の考えを言うようにしましょう。							授業の実施及びICTの活用に関する記述			
						授業中 Respon	Iに議論し、また質疑応答を行う。 で授業内容に関するアンケートを実施し、情報と皆の意見を共有する。			
						実務経験の有無及び活用 実務経験が1。 実務経験が1。 全級機関での経験と、物流データ分析および物流政策立案の支援の経験がある。民間企業と政府の考え方を伝え、より現実感のある授業を提供する。				
							金融模	関での経験と、物流データ分析および物流政策立案の支援の経験がある。民間企業と政府の	り考え方を伝え	、より現実感のある授業を提供する。
(科書 .使用しない.										
. 民用しない.					 					
****							備考			
考図書										
				<u> </u>	 					
					 					